
中世日記の基礎的研究

— 看聞日記を事例に —

課題番号06610307

平成6年度～8年度科学研究費補助金(基盤研究(c)(2))研究成果報告書

平成9年3月

丹生谷 哲一

(大阪教育大学教育学部)

序

『看聞日記』は多くの中世日記のなかでもその情報の多彩さにおいて際立っている。政治経済関係はもとより、宗教・民俗から風聞・巷説・夢にいたるまで、およそありとあらゆるものがとりあげられており、茶・花・猿楽・和歌・連歌・音楽・絵画など芸能に関する記事はとりわけ多い。当然『看聞日記』を用いた論文もかなりの数にのぼっている。歴史社会の多面的な究明がもとめられている現在、この日記の史料的価値はますます高まっているといえよう。

本研究は、こうした現状に鑑み、膨大な中世日記のなかから、さしあたり『看聞日記』をとりあげ、諸氏の利用の便に供するための若干の基礎的作業を試みたものである。その主な内容は次のとおりである。

続群書類従の補遺二として刊行されている『看聞御記』（上・下）をもとに、影印本などを参照して校訂を加えながら重要語句の比定作業をおこない、これをパーソナルコンピュータに入力して『看聞日記』の全文テキストデータベースを構築、この全文テキストデータベースを用いて日記中の重要語句の分類索引を作成すること。これが本研究の最終の目標であるが、これに記事内容の簡潔な要旨表を付して、『看聞日記』の各日条にどんなことが記されているかを一覧できるようにした。本報告では、とりあえず応永23年～25年の三年分について上記作業の結果を載せているが、もとより試作の域をでるものではないことをおことわりしておく。また索引については紙幅の関係もあり、このたびは割愛せざるを得なかった。

その他、主要な『看聞日記』関係史料・論文の文献リストおよび貞成の著作・筆写リストを付し、最後に『看聞日記』に取材した論文一編を載せることにした。

したがって本報告は、

- I、看聞日記分類索引のための全文テキストデータベース
- II、看聞日記記事要旨一覧表
- III、看聞日記関係史料・論文および貞成著作・筆写リスト（稿）
- IV、論文

の四編よりなっている。

なお本研究は、全体にわたって中世日記研究会のメンバー、とくに尾崎安啓・澤井英樹・中野祥利ら各氏の協力によって進められたが、本報告のまとめに当たっては一応の分担を決めたので、分担者の名前を各編の文末に記した。

内 容 目 次

I	看聞日記分類索引のための全文テキストデータベース (応永23年～25年)	1
II	看聞日記記事要旨一覧表 (応永23年～25年)	95
III	看聞日記関係史料・論文および貞成著作・筆写一覧 (稿)	123
IV	中世牛飼童の存在形態	(1)